

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○漢字の正答率が全国平均より高い。 ○本文から抜き出す問題は全国平均より高い。 ○最後の記述の正答率が高い。ふりかえりや日記などでもよく書いている成果と思われる。 ●言葉の意味を正確にとらえることが苦手。 ●複数の文章の違いにおいて正確に言葉を理解して読み取って判断することが難しい。	・資料を複数読み取って関連付けてまとめる活動を取り入れる。 ・新聞ワークシートを活用する。新聞を使い、文字が狭い範囲でたくさん配置されている文章になれる。 ・文章で新しい言葉を辞書で調べた際は、文章にあてはめて読み取ったり短文を作ったりして活用する場を取り入れる。また語彙を増やすために、言葉集めなど短時間でできる活動を継続し、集めた言葉を子ども一人一人がファイリングし蓄積していく活動を取り入れる。全校で取り組めるとよい。
算数	○無解答がほとんどなかった。昨年度ワンダふるタイムで似たような問題に取り組んだことで、問題が長くてもあきらめずに取り組めたのではないかと。 ○学力が二極化していない。習熟度別の学習の効果ではないかと。 ●読解力。何を問われているのかを理解する。 ●答え方を問題から読み取る力。	・言葉で書く活動を取り入れる。 ・いろいろな問題に触れる機会をもつ。
理科	○知識を問う問題の正答率が全国平均より高い。 ○無回答が少ない。どの問題も全校平均より少ない値。 ●実験結果を根拠にその数値を具体的に示し、問題に対するまとめの理由を適正に表現すること。 ●問題の見出しで、見いだした問題を解決するまでの表現を含んだ内容になっていない。	・問題解決の過程を大切に授業を展開する。具体的には、一人一人が差異点や共通点を基に比較して問題を見いだす活動を充実する。 ・各単元で授業を通して最も育成したい「問題解決の力」を教師がもち、その力が一番育成できる手立てを設定する。

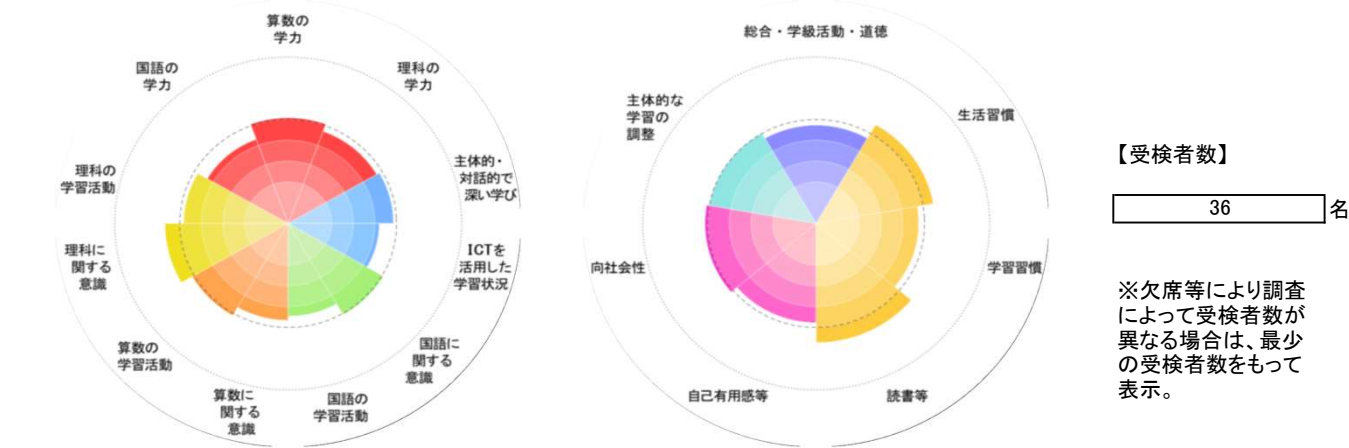
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○読書を毎日するための場を設定したので読書が好きな児童が増えた。 ○話し合う活動を通じて考えを深めたり新たな考えに気づいたりする児童が多い。 ●家庭で1時間以上学習をしている児童が少ない。 ●授業の中でICT機器を使用していると認識している児童が少ない。	・読書カードを活用して読書した内容を記録する。 ・家庭学習を促すために、課題の量を増やす。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・学習の中で、子どもたちが何がわかったのか、どのようにして知識・技能や思考・判断・表現を習得したのかなど、子どもたち自身が授業のふりかえりを書く活動を充実する。(自分が感じたこと思ったことを表現する力を高める)
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

